

あぐり[♪]deなんたん

南丹農業改良普及センターだより

平成31年2月

第21号

特集

米政策転換にも対応する 産地づくりの推進……………P2

新規就農者の紹介……………P5

■ Topics

- 頑張っています! 壬生菜部会…………… P6
- 経営の多角化・大規模化への挑戦…………… P7
- 農事功績表彰「緑白綬有功章」を受賞…………… P7
- 退任・認定された農業士の皆さん…………… P8
- 所長の一言…………… P8
- 平成31年度京都丹波就農サポート講座…………… P8

米政策転換にも対応する産地づくりの推進

平成30年、米政策は大きな転換点を迎えました。半世紀近く続いた行政主導による米の生産調整が終わり、米の直接支払い交付金（10⁷あたり7500円）も廃止。これらの影響により、何をどれだけ作付するか。生産者は、自らの判断で需要に応じた生産に取り組むこととされました。

南丹地域は、古くから府内随一の穀倉地帯として京都の水田農業を支えてきました。丹波キヌヒカリは2年連続の「特A」を獲得。産地としての評価を高めています。また、転作物として、和菓子や総菜の素材として根強い需要がある丹波大納言小豆や丹波黒大豆、黒大豆枝豆として絶大な人気を誇る紫ずきん、二条大麦などの産地でもあります。しかし近年、気候変動や外来雑草の侵入が栽培に悪影響をもたらしており、安定した生産を実現するための技術確立が必要となっています。

ここでは、米政策の転換で生産環境が大きく変化する中にも、新しい技術と基本技術の融合を積極的に進め、安定した農業経営の実現を目指す皆さんをご紹介します。



新たな技術開発でホオズキ類の被害軽減を目指す

南丹地域における丹波大納言小豆の生産量拡大・確保を目的に、亀岡市川東地区では大型機械による栽培体系「狭条密植栽培法」が行われています。

しかし、この栽培方法は、中耕や培土を行わないため、雑草が繁殖しやすいという弱点があります。特に、難防除雑草である「フウリンホオズキ」は大型で、多発すると手で抜き取ることは困難です。放置すると小豆の生育が阻害され、また、ホオズキの実が収穫した小豆に混入するなど、収量・品質ともに低下を招くこととなります。



万能散布バーを用いた除草作業



大型機械による播種作業の様子

そこで、管内数カ所のほ場において、浅く耕耘することで土壌中の雑草種子を地表面に極力出さないようにする新しい播種機や、条間の除草対策として、条間を中耕・除草するアタッチメント「除草カルチ」、さらに乗用管理機に除草剤を散布する器具を装着して条間に除草剤を散布する「万能散布バー」などを活用した現地試験を、メーカー、生産団体等の協力を得ながら進めています。

今後、実証結果を検証し、来年度の試験に反映させる予定です。

排水対策の徹底による黒大豆枝豆の安定生産

南丹市園部町 堤博明さん

堤さんは、南丹市園部町で、需要があり収益性の高い品目として黒大豆枝豆（約4畝）の栽培に取り組んでいます。

黒大豆枝豆栽培では、排水対策が最も重要です。排水不良のほ場では土壌が湿潤となり、耕起やうね立てが遅れたり、発芽率や除草



収穫物の脱莢作業

剤の効果が低下したりするなど様々な問題が発生します。

そこで堤さんは、溝掘機を導入し、秋に額縁明渠を設置しました。「ほ場の排水性が向上し、大面積でも適期作業ができるようになった」と堤さん。さらに、プラソイラーなども組み合わせた排水対策を検討しています。

今後は「排水対策を徹底して収量や品質を向上させたい。また、栽培面積を拡大し、作期と品種を組み合わせて、収穫作業時に継続して雇用ができるようにしたい」と語っておられます。



黒大豆枝豆栽培ほ場の様子

黒大豆の葉付き乾燥技術の実証試験

京丹波町和知地域 坂原農事組合

黒大豆栽培では成熟期に葉を落とす「葉取り作業」を行い、風通しを良くして乾燥を促進させます。一方、葉取り作業は手作業で行うために作業者にとっては大きな負担であり、また適期よりも早く作業すると減収する可能性もあります。

そこで、坂原農事組合では、葉取り作業を省略し、早期収穫による安定した年内出荷の実現を目的に、葉付きのまま株を乾燥させる試験を行いました。同組合が所有する乾燥機は蒸気を利用した乾燥方法を用いており、乾燥時間やパンプの排出（圧力の調整）等を自動制御でき、葉付き乾燥が可能とされています。

平成30年度は12月7日に収穫。まだ水分率の高い株を乾燥機で4日（85時間）乾燥させた

黒大豆の品質は、通常のものと同等でしたが、稲架干し等



デジタルボックスで自動制御を実現



葉付きのまま株を乾燥機へ

予備乾燥を省くことができ、14日程度早く出荷できる状態となりました。10⁷あたりの乾燥にかかる燃料代が通常よりも高くなるかかりますが、労働時間が40時間程度削減されました。組合員の方は「葉取り作業がないのはとても楽。年内出荷が可能となるのが良い」と話されています。各地にある乾燥機でもデジタルボックスを設置することで葉付き乾燥が可能となることから、普及センターでは、今後葉付き乾燥技術に係る効果的な収穫時期や乾燥条件等を調査し、普及を目指していきたいと考えています。

白大豆の生産性向上に向けて

南丹市美山町 有限会社タナセン

美山町鶴ヶ岡地域における白大豆の栽培面積は現在1.5ヘクタール、徐々に増えつつあります。美山産の白大豆は、地元のゆば製造者からの「美山産白大豆が欲しい」との要望に応える形で増産に努めています。しかし、地元の農家は「排水不良で生育のバラツキが目立ち、収量が安定しない。どうにかしたい」と話されており、排水性の改善が課題でした。



弾丸暗渠の施工



機械収穫の様子

そこで、地元の有限会社タナセンが、美山町での白大豆の生産性向上を目指し、排水対策として弾丸暗渠の実演会を行いました。普及センターは、根の張りを良好にするため、3日間隔、40センチの深さでの暗渠施工を提案しました。30年度は生育期間を通して多雨となりましたが、収量は平年並み（29年度107あたり140キ）を確保し、排水対策の効果が確認されました。

高温耐性があり良食味の

水稻新品種候補現地試験

普及センターは、農林センターが選抜した気候変動にも適応できる水稻新品種候補3系統の現地実証証ほを設置しました。

管内では、亀岡市宮前町の西田稔さんと西田勝さんに現地実証ほを依頼し、育苗から収穫までの栽培管理をお世話になりました。普及センターは、農林センター



田植え作業の様子



坪刈りを行う普及指導員

作物部とともに各系統の生育調査及び成熟期調査を実施しました。今後、調査結果や食味官能審査結果を検討し、品質・収量及び食味等、3系統の中で特に優れたものを平成31年度に京都オリジナル新品種として選抜します。新品種としての一般栽培は、平成33年度からの予定です。

新規就農者の紹介

農業で生活できる経営者を目指して

亀岡市曾我部町 戸田 康裕さん



戸田康裕さん(中央)と従業員の方々

戸田さんは、大井町と馬路町で1年間研修した後、平成29年7月に曾我部町で就農されました。主力はハウスイチゴの養液土耕栽培で、12月から2月まで洋菓子店に出荷し、3月から6月まで観光農園を行っています。ま



たわわに実るイチゴ

た、それ以外の時期は露地でトマト、ナス、枝豆などの野菜を栽培し、地元の直売所等に出荷しています。戸田さんは学生の頃から日本の農業が衰退している状況に危機感を覚え「若い人が農業で生活できるモデルケースを作りたい」と思い、勤めていた会社を辞めて、農業経営者の道を志しました。イチゴ栽培では最新の栽培管理技術を導入し、高品質の商品を生産するように努めています。しかし、洋菓子店からの注文が多くなる12月には生産量が足りないという問題が発生したため、ハウスの規模を拡大して生産量を増やしたいと考えています。今後は「より収益を上げるため、余ったイチゴをジェラートに加工し、販売する6次産業化にも取り組みたい」と意気込んでいます。

大規模経営を目指す

南丹市美山町 東 智也さん



東 智也さん

東智也さんは、南丹市美山町を中心に水稲5畝、大豆を3畝栽培しているほか、10畝の作業請負を行っています。

東さんのご実家は兼業農家で、ご自身も消防士として長く勤務されましたが、平成26年に退職し、「水稲+豆類の大規模経営」を目指して就農されました。

東さんは就農時から普及センターの経営支援を受け、中長期にわたる経営計画を検討するなかで、将来のありたい姿を「自分の子供が喜んで就農し、ともに働く経営」と設定されました。そして、そのための経営目標を「水稲40畝

＋豆類10畝で売上7000万円」と設定し、生産規模拡大と販路開拓に努めてこられました。「就農当初は自分がどうすべきかがはっきりしないまま焦っていました。が、ありがたい姿を実現するために、目標を設定することで、やるべきことが明確になり、ブレなくなりました」と笑顔で語っておられます。今後、地域の担い手としてのさらなる経営発展が期待されます。



白大豆の機械収穫作業

Topics 経営の多角化・大規模化への挑戦

特産白小豆で家族の思いをカタチに

亀岡市余部町 関 徳義さん



関徳義さんは、余部町で水稻10%、肥育牛6頭、モチ加工を営んでいます。

関さんが自宅の一部を改装し、加工場を作ったのは平成26年のことです。「商品に責任が持てる経営」「家族の能力が発揮できる経営」という理念のもと、お母様の腕を生かしたモチ加工に取り組まれています。自ら栽培したモチ米にこだわり、他の地域では手に入りにくい珍しい白小豆を使ったあん餅は、ここでしか味わえない味として好評を博しています。

そして、近い将来、ご本人と奥様の思いをカタチにすべく、自家栽培小麦を使ったケーキなどの開発にも取り組むとのこと。

今後、ご家族の思いがどのようなカタチになるか楽しみです。

地の利を活かして規模拡大を目指す

亀岡市下矢田町 桂 幸光さん

桂さんは、露地約3畝、ハウス20区(12棟)で、小松菜、ほうれん草、甘とう美人、わさび菜を栽培し、飲食店や生協に出荷されています。



30年度、需要が高い品目として甘とう美人に着目。営農規模の拡大を目指して2000本の甘とう美人の栽培に挑戦しました。それにあわせ、住宅地が近隣にある地の利を生かし、地元の方をパートとして雇用するほか、管理作業の効率化等様々な工夫をされました。

しかし、7月の酷暑や9月の台風の被害などにより、生産量は目標の半分以下に。パートさんの仕事が確保できない、顧客に十分な量が納入できないなど、多くの苦労を経験されました。

それでも桂さんは復旧の先を見据えています。自然災害を見越した栽培計画を作るとともに、販売先が生産地と近い強みを生かし、今まで以上に顧客ニーズを把握して顧客との信頼強化を図り、経営規模の拡大を目指してパートさんとともにがんばりたいと決意を語っておられました。

農事功績表彰「緑白綬有功章」を受賞

産地の発展や後継者育成を通じて地域の活性化に大きく貢献をされたことが高く評価されました。



一面に広がる聖護院かぶ畑



田村 隆弘さん

おめでとうございます

亀岡市篠町の田村さんは、長年にわたる京の伝統野菜である聖護院かぶの栽培に取り組んでこられ、このたび、公益社団法人大日本農会による農事功績表彰「緑白綬有功章」を受賞されました。

田村さんは、たゆまざる努力と創意工夫によって、聖護院かぶの高品質栽培技術の導入や市場ニーズに対応した生産改善に取り組む、確かな経営を築き上げてこられました。また、京都府指導農業者を務められるなど、地域のリーダーとして長年活躍。

『農家兼料理人』を目指して

京丹波町八田 高橋 慎也さん



高橋 慎也さん

高橋さんは平成27年に就農し、水稲、黒大豆、多品目の野菜類を生産・加工し、直売所、マルシェでの販売や宅配をされています。

元々は料理人として活躍していました。体が壊れてしまった時、無農産野菜の美味しさに気付いたことが農業に携わるきっかけとなりました。

その後、先輩農家のもとで農業を学ぶ中で、野菜を作る楽しさを実感。料理人としての素材に対するこだわりを活かし、自分の作った野菜で加工品を作りたいとの思いを持つようになり、京丹波町で就農されました。現在は、化学合成農薬や肥料を使わず、

微生物の力を活かした炭素循環農法に取り組んでおられます。

雑草や害虫の発生、天候によって作物の出来が大きく左右されることに農業の難しさを感じている高橋さん。それでも、お客さんからの「無農薬で野菜ができるなんて驚いた。野菜一つひとつの味が濃く、美味しい」という反応が嬉しく、試行錯誤しながら栽培に取り組まれています。

今後の営農について、「加工品の開発を進め、それに合わせた品目の栽培を行いたい。将来的には、同じ志を持つ仲間と、資材や労働力を提供し合うファームシェアを実現したい」と抱負を語られました。



人参を収穫する高橋さん

Topics 頑張っています!壬生菜部会

南丹市日吉町

壬生菜部会

南丹市日吉町が主産地である京の伝統野菜「壬生菜」は、近年の極端な夏の暑さや冬の寒さにより、生産量が減少しています。そこで、30年度、「小さな経営革新チャレンジ支援事業」を活用し、夏の高温による発芽不良を防ぐために遮熱・遮光資材を、冬の凍害による収量減少を防ぐために保温器を導入し、生産量の確保に努めています。



被覆資材で遮熱する



保温器具を導入

前年の29年度に谷口成生部会長は「保温器具(商品名…農芸用保温器)」を試験的に導入されました。慣行区に比べ、収量が大幅に増え、燃料費を考慮しても売上が増加することが確認されたとのこと。

谷口部会長は「部会のスローガンである『安定生産による所得の向上』の達成のため、品質向上と出荷量増を実現し、次世代へと繋がる農業をしていきたい」と意気込みを語っておられます。

退任・認定された 農業士の皆さん

(敬称略)

指導農業士
大西 栄二
亀岡市
平成30年度認定

女性農業士

小川 道子
南丹市
平成30年度認定
井尻 逸子
南丹市
平成30年度認定

退任

青年農業士

八田 和泰
亀岡市
平成30年度認定
北井 完司
南丹市
平成30年度認定
富沢 崇志
南丹市
平成30年度認定
永井 吉幸
京丹波町
平成30年度認定

新任

指導農業士

山本 則次
亀岡市
八木 孝弘
亀岡市

青年農業士

小西 真也
南丹市
松村 千絵
京丹波町

よろしく願います!

たいへんお世話になりました!

所長の一言

普及現場にて

所長 城田 浩治



昨年6月1日
付けで当普及セ
ンターに配属と
なりました城田
です。

当時と大きく異なる現状に驚きます。

普及センターの本来の仕事は、5年、10年先を見据えた「技術継承・開発」や「地域・経営支援」など、長期を要するものがほとんどです。しかし、これと相反するかのようになり、多様化する農業経営体と農産物流通、増加する就業希望者、デジタル技術と農業技術の融合、新品種作物への対応、激甚化する自然災害等、新しい事案が次々と猛スピードで眼前に拡がります。力及ばないかもしれませんが、本来の仕事も果たしつつ、これら事案のスピードに押されることなく、普及指導員とともに地道に取り組みたいと考えます。今後ともご協力をお願いいたします。

平成31年度京都丹波就農サポート講座

受講生
募集予定!!

- ◆ 対象 ①将来、京都丹波地域の農業の担い手として基礎技術習得が必要な方。
②農福連携に取り組む施設で農業技術の指導に携わる職員。計定員20名程度。
- ◆ 日時 平成31年4月～10月予定。原則平日午後1時30分～5時。
- ◆ 会場 京都府園部総合庁舎（南丹市園部町小山東町藤ノ木21）他
- ◆ 講座内容 (予定) 土壌肥料、病害虫防除、露地野菜、施設野菜、豆類等の基礎技術、先進農家の経営視察研修等全10回程度
- ◆ 受講料 無料（但し実費負担を求めることがあります）
- ◆ 申込方法 申込書に記入の上、持参・郵送・FAX・電子メールで申し込み。
書類選考の上、3月末日までに受講生を決定。詳しい募集要領・申込書の請求は普及センターまで（普及センターのホームページにも掲載）
- ◆ 締切 平成31年3月20日(水)必着



編集・発行

京都府南丹広域振興局
農林商工部
南丹農業改良普及センター

京都府南丹市園部町小山東町藤ノ木21
TEL.0771-62-0665 FAX.0771-63-1864
ホームページ▶<http://www.pref.kyoto.jp/nantan/no-nokai/>
E-mail▶nanshin-no-nantan-nokai@pref.kyoto.lg.jp